

第1章 県土の景観特性

1. 県土の自然特性

① 飛山濃水

岐阜県は「飛山濃水」のことばで表されるように、飛騨は山、美濃は川によって象徴される。県土は高原とこれを刻み込む峡谷の多い山地と、低湿な水に囲まれた輪中を中心とする平野とを含む。岐阜県の平野は全面積の12%程度で、大部分が山地である。美濃だけでも7割近くが山地で、山地と平野の対照がみられる。

東の槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳等の標高3,000m級の山々が連なる飛騨山脈と、西の白山や大日岳を中心とした両白山地に挟まれた飛騨は、全域がほとんど山である。乗鞍岳と位山、大日岳を結ぶ線は、分水嶺となっていて、それ以北は日本海側斜面、以南は太平洋側斜面である。

木曾・長良・揖斐の三大川が流れる美濃は、広々とした平地が広がる地域である。上流から土砂と共に諸々の有機物を押し流した諸川は、下流域に肥沃な土地をつくり上げた。

これらの山あいを縫うように、また河川に沿うように、中山道や飛騨街道などの街道が通り、宿場町が形成された。現在では、高速道路や国道等が県土全体に交通網を形成している。

また、山地における原生林や高山植物の緑や、河川における渓谷や峡谷などの自然の風景地については、国立公園、国定公園及び県立自然公園の指定を受けており、優れた自然が保全されている。

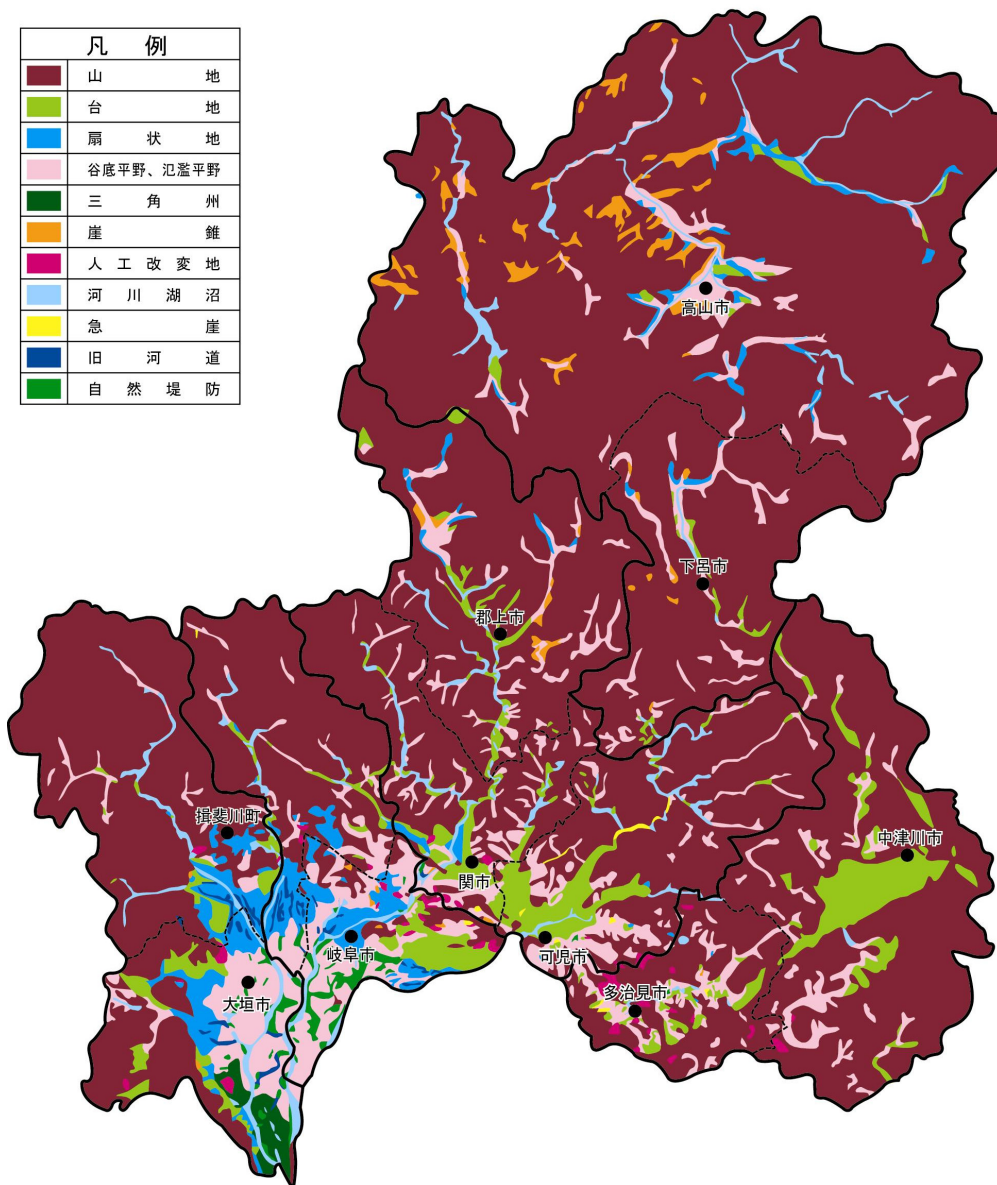
県土は、こうした自然に覆われており、そうした自然を活かし、あるいは制約されながら、この地に合った生活様式、文化をつくり上げていった。岐阜県の景観は、飛山濃水を基盤に形成されたものである。

② 地形

岐阜県はその面積の約81%が山地である。北部には標高3,000m級の山が連なり、東部、西部、北部の県境にも、様々な山地が位置している。

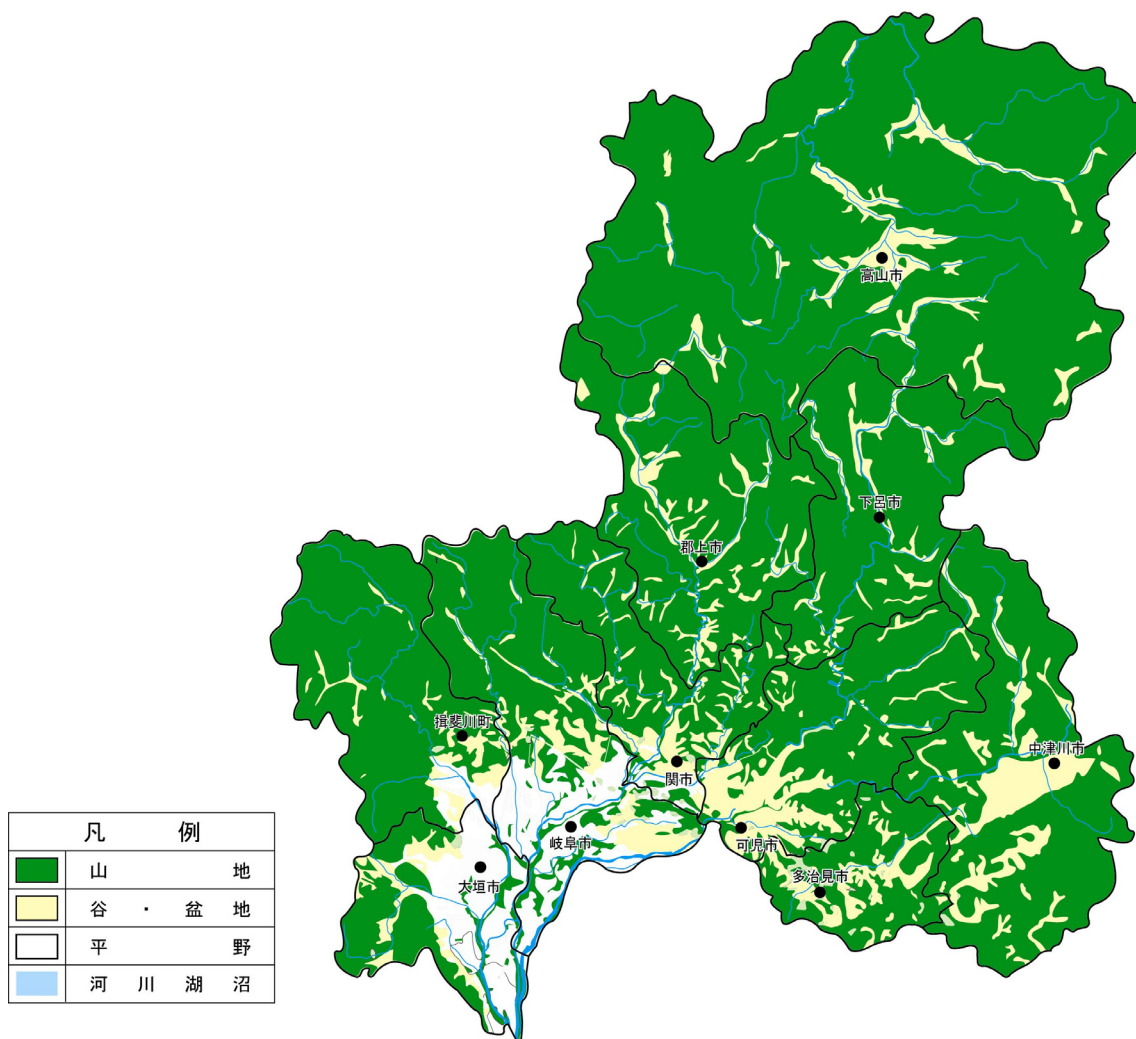
平野は約12%と少なく、県土の南西部に濃尾平野が広がっている。

谷・盆地はさらに少なく約7%で、谷は県土全体に山間を縫うように位置し、盆地は東濃地域の東部から岐阜地域の南部にかけて、また、飛騨地域に位置している。



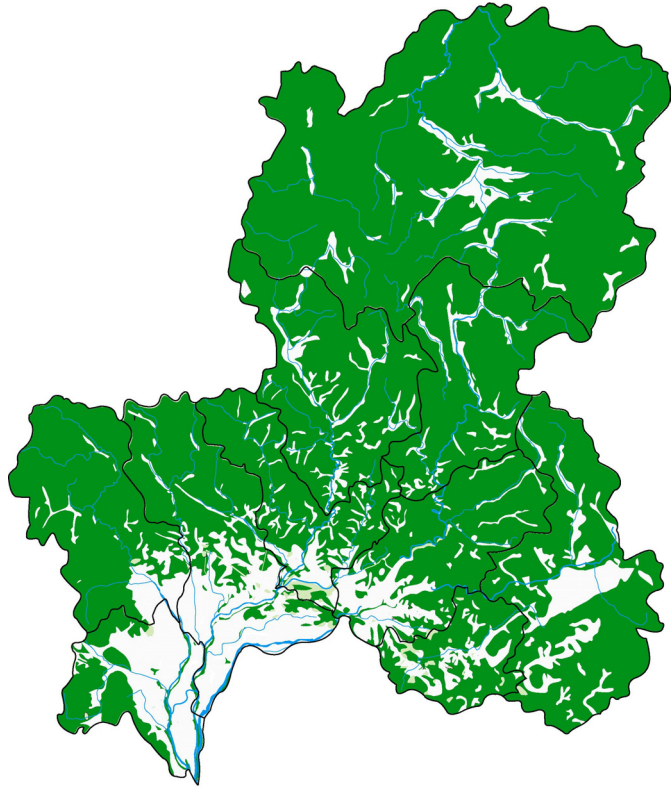
③ 地形のエリア区分

以下では、地形分類により、山地エリア、谷・盆地エリア、平野エリアの3つの地形エリアに区分している。



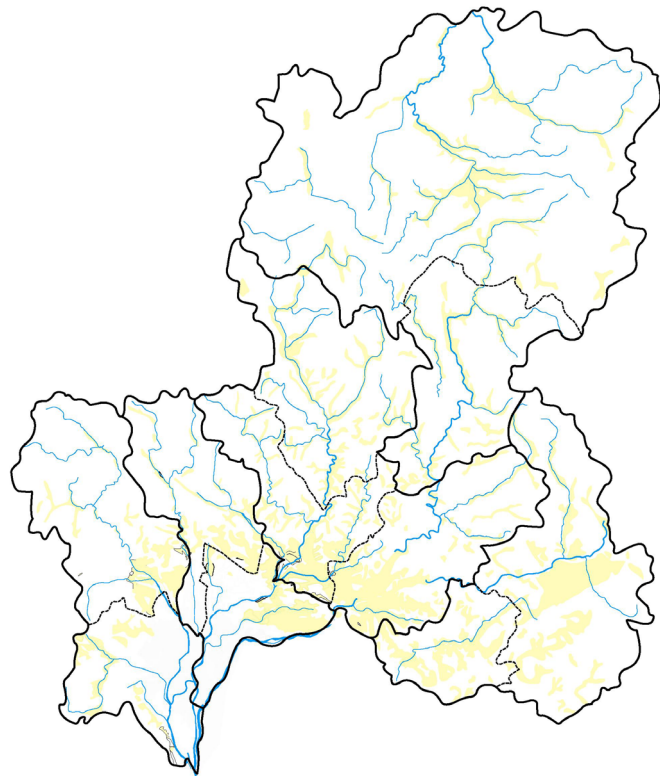
・山地エリア

- ・地形分類図の山地、崖錐、人工改変地、急崖を含む。
- ・県土の約81%を占める。
- ・市街地等からの眺望の対象となっている。
- ・山林や高山植物等の豊かな自然がみられる。



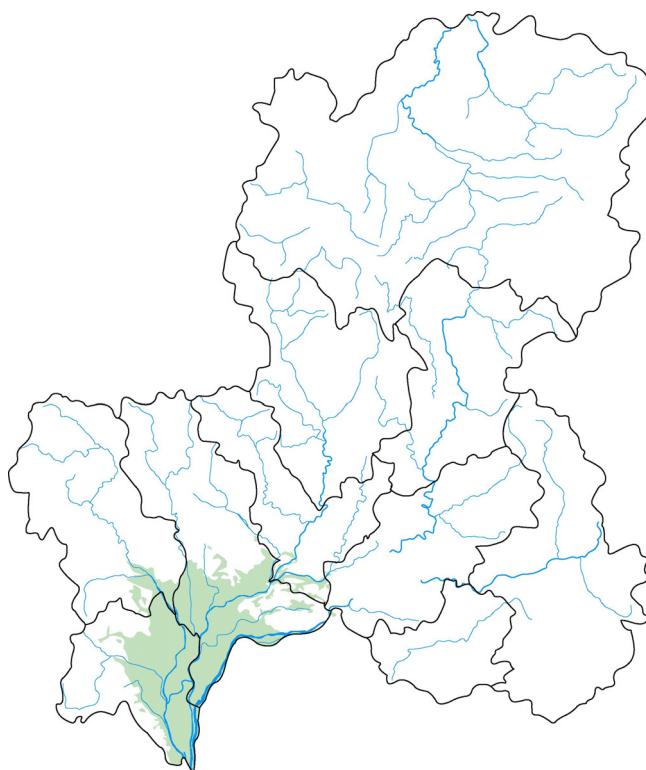
・谷・盆地エリア

- ・地形分類図の台地、谷底平野、扇状地、旧河道を含む。
- ・県土の約7%を占める。
- ・まとまった盆地は、県土の南東部に位置している。
- ・周囲を山で囲まれており谷・盆地エリアのどの場所からも眺望がえられる。
- ・谷間、盆地の中心部には市街地や集落地が形成されている。



・平野エリア

- ・地形分類図の扇状地、氾濫平野、三角州、旧河道、自然堤防を含む。
- ・県土の南西部に位置し、県土の約12%程度を占める。
- ・人口が最も集中した地域で市街地を形成している。
- ・河川沿いや田園地帯では、広がりのある眺望がえられる。



④ 山岳

岐阜県はその面積の約81%が山地である。東部・西部・北部の県境は山地・山脈となっており、大別すると北から順に以下の山地・山脈がある。

飛騨地域は、標高1,000m以上の山が多くあり、西部に両白山地、東部に飛騨山脈がある。

飛騨地域の南部から中濃、東濃地域にかけて、高さ1,000m以下の低山性の美濃高原が広く横たわり、東部は阿寺山地、西部は美濃越前山地に連なっている。

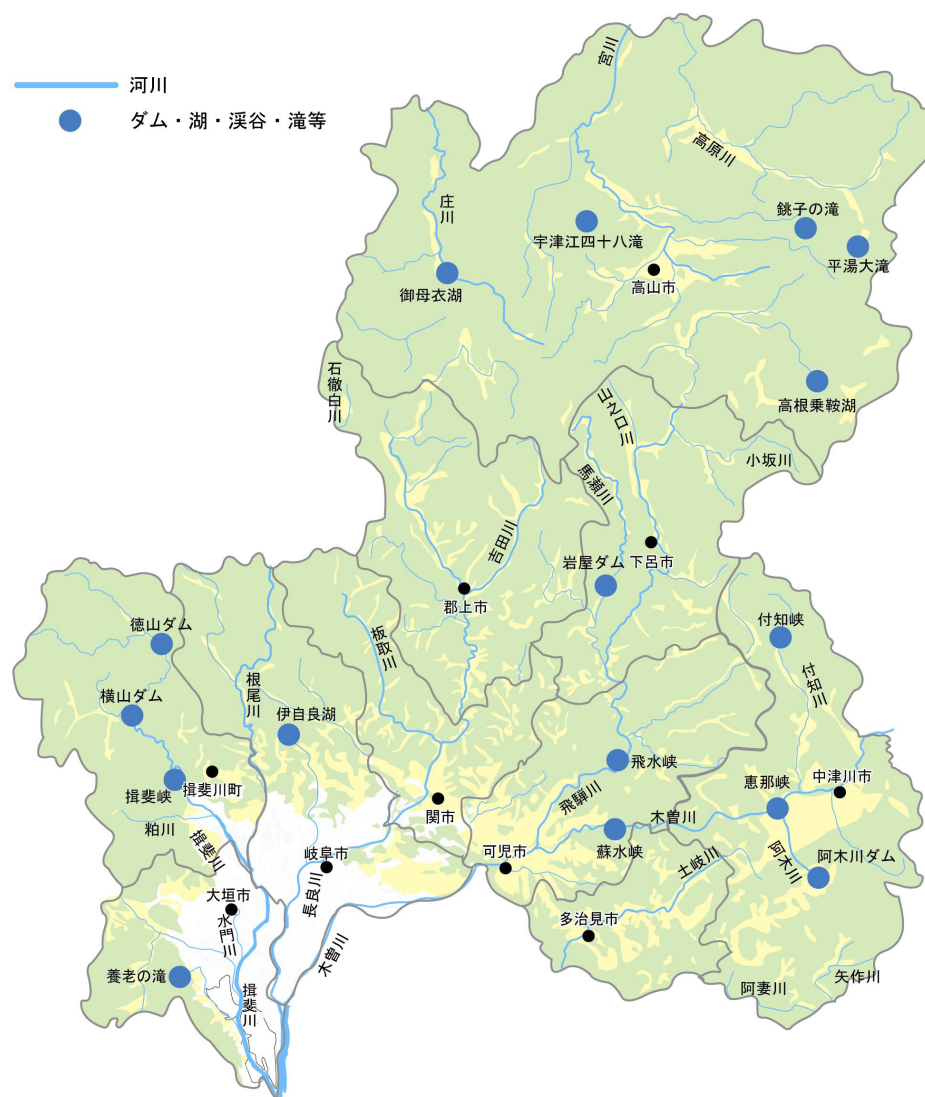
西濃地域の北部には美濃越前山地が、南西部に伊吹山地・養老山地がある。



⑤ 河川

岐阜県には、1級河川の水系としては6水系あり、太平洋側に注ぐ矢作川水系（矢作川、阿妻川）、庄内川水系（土岐川）、そして木曾川水系（木曾川、飛騨川、長良川、揖斐川、根尾川、板取川、阿木川、付知川、馬瀬川、吉田川、小坂川、山之口川、粕川、水門川）、日本海側に注ぐ神通川水系（宮川、高原川）、庄川水系（庄川）、九頭竜川水系（石徹白川）がある。

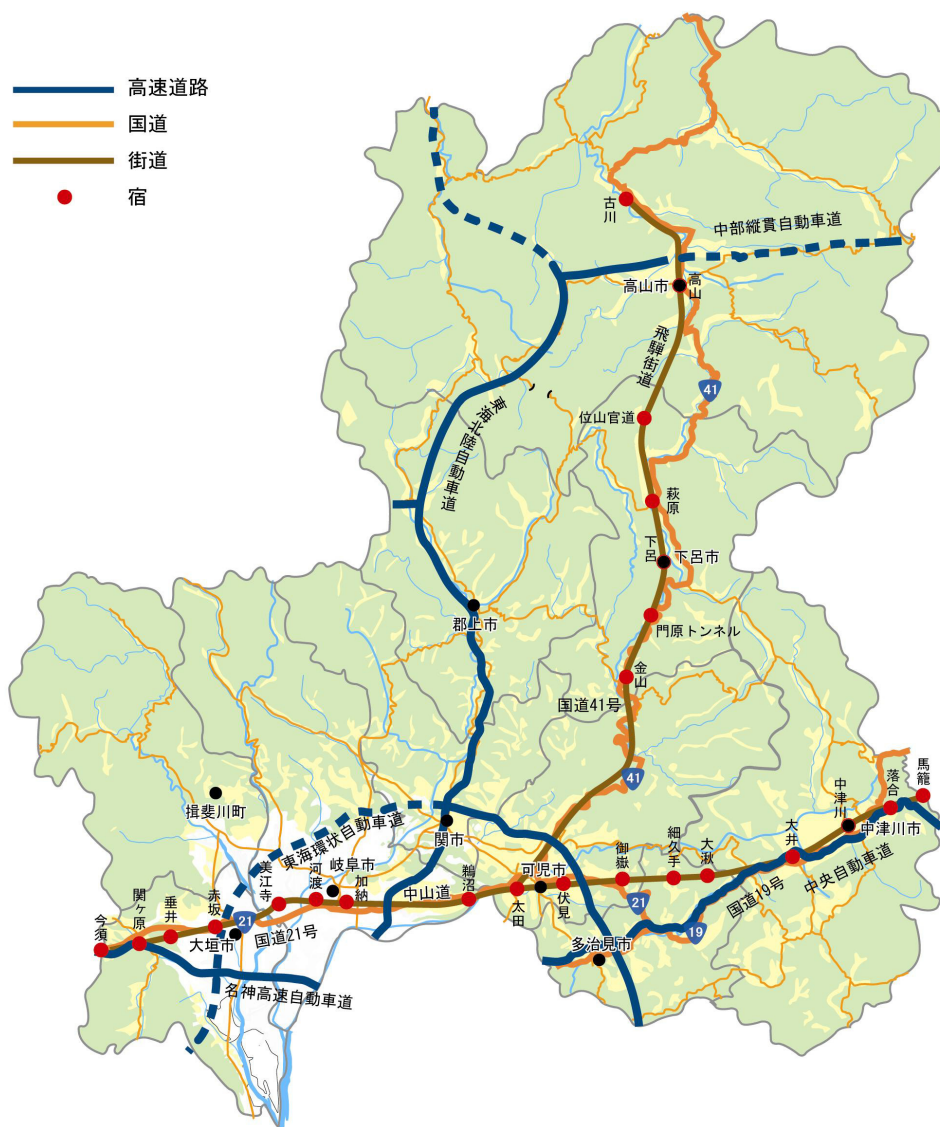
河川の上流部から中流部にかけては、数多くのダム、湖、渓谷、滝等がある。



⑥ 道路・街道

県内には、名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、東海環状自動車道、中部縦貫自動車道が整備されている。

また、県内には、様々な歴史的街道があるが、特に美濃の東西交通の要路としては中山道が、飛騨へ向かう南北交通の要路としては飛騨街道がある。



⑦ 自然

本県には、ライチョウで名高い中部山岳国立公園と、白山を主峰とする高山植物が豊かな白山国立公園の2つの国立公園のほか、飛騨木曾川国立公園、揖斐関ヶ原養老国立公園の2つの国立公園がある。

また、宝暦治水で作られた千本松原県立自然公園、ひるがの湿原や清流長良川の渓谷美を持つ奥長良川県立自然公園、原生林が美しい御嶽山県立自然公園をはじめ平成16年4月現在15の県立自然公園（約122千ha）がある。



⑧ 盆地

飛騨地域には、高山盆地、古川盆地、宮盆地がある。

これらの盆地は、底部の標高が450m以上と高く、市街地や集落地のどこからも眺望の対象となる飛騨の山々を見ることができる。

東濃地域から中濃地域にかけては、中津川盆地、多治見盆地、土岐盆地、可児盆地、太田盆地と盆地が連なっている。

そのうち、中津川盆地では標高1,000mを超える山に囲まれており、飛騨地域と同様の山間部の盆地となっている。また、多治見盆地、土岐盆地から可児盆地、太田盆地にかけては高度の低い山に囲まれている。



⑨ 田園

濃尾平野において、岐阜市や大垣市等の市街地を取り巻くように田園が広がり、穀倉地帯を形成している。

また、木曾三川の合流部付近では、海拔が低いため輪中を形成しており、伝統的な水屋建築等が見られる。

山間部では、棚田に代表されるように、地形にあわせて様々な規模の耕作地が段状に連なる立体的な田園を形成している。

また、これらの田園には農村集落が形成され、白川郷などの伝統的な様式の建築物等が残されている地区もある。



2. 県土の文化特性

① 文学に描かれている例

文学の世界においても岐阜県の各地において豊かな自然と風景を題材として描かれた文学がつくられ、また岐阜県で育った人々のなかから多くの文学人が登場している。

具体的には、岐阜県の特徴である良好な自然環境や鶺鴒などに代表される特徴ある文化、風俗を描いた作品が主流となっている。

また紀行文、旅行者、滞在者の視点から描いた作品も多く残されている。特に松尾芭蕉による「奥の細道」における俳諧は、心象風景の最も優れた描写のひとつである。

地域	描写の内容	代表作品
岐阜	清流長良川の風景、鶺鴒の情景が描かれている。	「奥の細道」(松尾芭蕉)
	稲葉山(金華山)、稲葉山城(岐阜城)長良川など岐阜の眺望景観が描かれている。	「国盗り物語」(司馬遼太郎) 「織田信長」(山岡宗八)
	「金華橋を北に渡り橋の袂から金華山に上る日の出を見る。これは絶景だ。」	「美濃」(小島信夫)
	望郷の歴史の中を流れ続ける岐阜の町の描写がある。	「煤煙」(森田草平)
西濃	水郷地域の心象風景を描写。大垣は結びの地として知られる。	「奥の細道」(松尾芭蕉)
	養老の滝は古来から和歌、俳句など多くの文学にその景観を描かれている。	「続日本紀」「十訓抄」「古今著聞集」
中濃	現美濃加茂市の出身で故郷の太田宿の情景を詠んでいる。	「この木の実ふりにし故郷」(坪内逍遙)
	郡上地域の谷深い集落景観の眺望を描いている。	「郡上の南天」(水上勉)
東濃	恵那峡などの自然とその眺望を謳う。	「詩集」(北原白秋)
	恵那・中津川地域の豊かな自然が描写されている。	「映画・青い山脈」(監督・西村克己)
飛騨	雪深い飛騨の地、野麦峠の風景を描いている。	「ああ野麦峠」(山本茂美)
	天生峠の眺望と自然、高山祭りの情景など詩情豊かに描かれている。	「峠」(早船ちよ)
	明治時代の飛騨の情景が描かれている。	山の民(江馬修)

② 絵画に描かれている例

美濃は古くから東西交通の接点であり、中山道などの街道が通り、旅行者が多くあった。江戸時代名所絵図や街道絵図のなかでも名高い浮世絵「中山道六十三次」(安藤広重)にも美濃十六宿と馬籠宿が描かれている。

■ 「中山道六十三次」 美濃十六宿と馬籠宿

今須 	関ヶ原 
美濃と近江の国境の宿場の風景	美濃十六宿で最大の宿場の風景
垂井 	赤坂 
松並木の風景	水都の川と桜並木の風景
美江寺 	河渡 
美濃平野の入り口の風景	長良川の鵜飼の風景
加納 	鵜沼 
美濃平野の風景	木曾川と対岸の犬山城の風景

<p>太田</p> 	<p>伏見</p> 
<p>雄大な木曾川の風景</p>	<p>ゆったりした可児盆地の風景</p>
<p>御嶽</p> 	<p>細久手</p> 
<p>山間の峠の風景</p>	<p>美濃高原の風景</p>
<p>大湫</p> 	<p>大井</p> 
<p>花崗岩質の奇岩の風景</p>	<p>雪の恵那山の風景</p>
<p>中津川</p> 	<p>落合</p> 
<p>中津川盆地の風景</p>	<p>木曾路の風景</p>
<p>馬籠</p> 	<p>出典：岐阜県美術館、中山道美術館</p>
<p>馬籠峠の風景</p>	